

# 映画新聞

MOVIE NEWS

2月28日(木曜日)

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」製作配給委員会

〒834-0047  
福岡県八女市稲富111-1  
電話/FAX:0943-24-9061  
email:koushien-642@hi3.enjoy.ne.jp

発行人:鈴木一美  
編集:白石ルリ子  
高尾美由紀  
稲富朋子

—HPはこちら

## 豪雪の中映画祭ファンが続々

### 主演 渡辺佑太郎が来場



あきた十文字映画祭の会場の周りの積雪は、優に1メートルを超え、除雪による道路脇は高い雪壁が縦横無尽に伸びていた。会場となる横手市十文字文化センターは、レトロ一杯の昭和を感じさせる懐かしい建物で、第28回あきた十文字映画祭の中日である2月11日の午後から、当映画の上映が行われた。

この日も温気を含んだ重い雪が降り止まない中、大勢のお客様が肩に頭に雪を被りながら来場してくださいました。客席もほぼ八割ほど埋まり、この作品に対する意識と期待の高さがうかがわれるました。その観客の中には私の小中高の同級生たちがパートナー同伴で来てくださり、温もりのある雰囲気を出してくれました。上映中は他所と同じく、泣き笑いや感動の箇所はあつと102分の鑑賞時間はあつという間に過ぎていきました。



左) 鈴木プロデューサー  
右) 渡辺佑太郎さん



上映後は実行委員の出雲さんの司会と、主演を務めた渡辺佑太郎さん、不肖私との3人によるフリートークでした。役作りの工夫や製作の苦心等を語り合いましたが、映画というものは、作ったのはスタッフ俳優そしてボランテニアスタッフの皆さんでした。完成させるのはあくまで観終えた観客の皆様であること、これを考えると、トーク後の盛大な拍手をいただいた瞬間に、この映画がやっと作品になったと確信に至りました。

上映し続けた秋田映画センターの吉田さんたちの頑張りのおかげで、

◆文部科学省特別選定作品  
(一般劇映画 青年向き・少年向き)  
◇ぴあ映画初日満足度ランキング第1位  
◇ドリパス上映リクエストランキング第2位  
◇鹿児島県知事 推薦  
◇鹿児島県教育委員会 推薦  
◇鹿児島県高等学校野球連盟 推薦  
◇助成:文化庁文化芸術振興費補助金

**数々の評価実績**

### 八千代座で上映

熊本県山鹿市にある国指定重要文化財『八千代座』にて、2月21日上映会がありました。当日は山鹿市長と女優芋生悠さんにご挨拶を頂きました。演劇部員役を演じた芋生さんは山鹿市出身で嬉しい凱旋報告になりました。

八千代座は、百年前の明治43年に建てられた木造の芝居小屋です。現在も坂東玉三郎さんや市川海老蔵さんの一座が来て興行を打っています。そんなノスタルジックのある劇場での上映



左) 芋生悠 右) 山鹿市長

### 名刹 建長寺も感動

数十年ぶりに青春映画を鑑賞致しました。春の甲子園選抜大会予選に敗退した八女北高校野球部は、チームがギクシャクし始める中、監督の指導理念「野球だけの人間になるな!」という信念で、ピッチャーのジョン、キャッチャーでキャプテンのリョウウタ、エラーをしてしまったカズマの3人に演劇部に行くよう命令される。反発する3人の出会いや体験を通して成長していく姿が昭和の良き時代を思い起こさせてくれました。仲間や家族と共に今を生きている、今の瞬間を大切に育んでいってほしいと思う教師の温かいエールに心打たれようとしていく姿に感動を受けました。

この作品を観てある論語を思い出しました。皆様が存知の儒教五常で、「仁・義・礼・智・信」という陰陽五行説に対応したもので、「優しい心、強い心、感謝する心、正しい心、正直な心、人を裏切らず、礼儀正しく、真心こめて、筋道を通すこと、いわゆる「道徳」です。映像から醸し出されるひとり一人の個性を大事にし、夢、挫折、友情、初恋、冒険・旅立ちこそ、それぞれの今の瞬間を生きていると感じます。



鎌倉建長寺学びの会事務局長 鈴木恵孝子

勝負の世界は勝ち負けで決まります。コンクールも入賞でなければなりません。しかし、自分だけがその世界に浸っているだけでは世界は変わらない。色々な出会いや別れがあり、苦しみ悩み心の葛藤を経験して更に成長していく。そのようなことを思い起こさせてくれる映画でした。

修理完成記念に坂東玉三郎さんが寄贈されたものでの上映となりました。



JA職員時代の平井氏

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」支援する会  
事務局長 平井靖文

### 【映画製作に関わって】軌跡からの奇跡②

2013年、私はまだJAの職員で、忙しい毎日を送っていました。その頃は家業である農業の仕事と、次男の長期入院の世話で毎日病院へ通うなど、私は妻にかなり負担をかけていることを感じていました。その時私は57歳で、定年まであと3年ありましたが、そろそろ勤めをやめて農業に専念すべきか迷っていました。

そんな12月のある日、市役所の伊藤部長(当時)がJAの私のもとへある方を連れて訪ねて来られました。伊藤部長とはかねてより、「映画の力によって八女市を活性化できないか」と話していた経緯があり、私の映画好きもよく知っておられた。その伊藤部長が連れて来られたその方が私にとつて夢への道を開いてくれた「運命」とも言える人、鈴木プロデューサーでした。彼が以前製作した映画「さよなら、クロ」を、私が東京赴任時代に観ていたことから、すぐに意気投合。今にして思えば、有楽町駅前の小さな映画館で「さよなら、クロ」を観たことが、後に運命とも言えることになりました。

その後、八女を舞台にした映画製作の準備を進めているとの話を聞いて、私は心が熱くなりました。私が「一生に一度でも」と願った夢が、目の前にやってくるのです。鈴木プロデューサーからは、この映画の製作をぜひ手伝ってほしいと頼まれました。私も「いいえ、ぜひやらせてください」と答えていました。(続く)



映画に出演して

映画に出演するのは人生で初めての経験だった。「観る」という立場から「観せる」という立場に変わると、撮影当初は戸惑いや不安が多かったが、今となっては私の人生の視野を大きく広げたとても良い機会だったと思う。

撮影期間中は毎日、共演している役者の方から刺激を受けた。特に、普段の姿と撮影中の姿のギャップや、撮影に挑む時の真剣な眼差しが印象に残っている。その演技を間近で見ると、圧倒された。

映画で学んだことは書ききれないほど沢山あり、私は本当に貴重な経験をさせていただき改めて思う。監督に映画の助言だけでなく、人生の助言を頂いたり、役者の方々とこの作品にかける



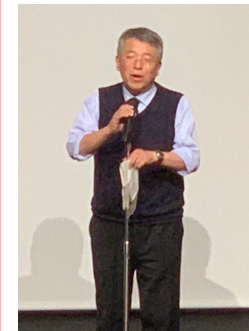
古賀ももこ

熱い想いを話したり、スタッフの方々と支援する会の方々に沢山支えて頂いたり感謝の気持ちでいっぱい。誰一人欠けても出来なかった作品だと思われ、出会ったことに感謝したい。この映画が上演されるにあたり、私の中の地元を愛し、誇りに思う心が今までより、一層強くなった。これからも地元出演者として八女を想う気持ちを忘れずこの映画を一人でも多くの方に見てもらいたいと思っています。

~Leading Roles(英語版タイトル)~

2月3日(日)、八女市で初めての英語字幕版の上映会が、おこなわれ八女で開催されました。上映に先立ち、この映画に演劇部員として出演した古賀ももこさんが、地元の名謡「八女茶山唄」を豊かな声量で朗々と歌い上げました。8歳の時から民謡を学び、大会で優勝するほどの本格的な歌声に会場からは盛んな拍手が送られました。

今回の上映会では、原作の舞台となった西日本短期大学附属高校の現役野球部員やその保護者の方々も鑑賞されました。英語字幕版は、世界各地の映画祭にエントリーするために作成されたもので、先生方に感想を伺ってみたいと「この映画の英語字幕版は初めての経験でしたが、簡潔的で得ている翻訳でした。日常会話教材に最適で、生徒



英語でスピーチする山下教諭

「海外の多くの方々にも観てほしい」「英和対訳の学習教材があつてもいいくらい」との言葉を頂きました。上映後、原作者の竹島由美子先生より、主題歌「ユビノサキ」は、生徒の短歌「アツクも欲しいものがあつた。指先のちよつと向こうで消えました。」からきているというエピソードが紹介されました。続いて宇梶剛士さんが演じた監督役のモデルである西村監督(西短高校野球部監督)が、「夢を叶えた生徒たちが、今度は皆の為になまごころをしようという志を持ち頑張っている」という話をされ、物語はまだ現在も実際に続いているという美感受動でした。



右) 原作者 竹島由美子さん

左) 西短野球部監督 西村慎太郎さん

☆大津高校生徒から届いた色紙☆

A collage of colorful postcards and drawings from high school students, featuring a central portrait of a man and various handwritten messages in Japanese.

バリアフリー上映を観て

八女で映画のロケがあると聞いて、来た上がつた映画を観て、「思っていたより日本らしい」「八女」がちゃんと撮られているな。」と感動しました。私は耳が聞こえないので、映画を観る時は、字幕がないと観れません。だからバリアフリー上映をしてくれると聞いた時は嬉しくて、色んな友達に知らせました。しかし、字幕付きで上映される映画館の日時は限られていて、日時が合わず観れない人も沢山いて、本当に残念でした。

バリアフリー上映という特別上映ではなく、最初から全ての人が同じ映画と一緒に観たいという思いが、ユビノサルマナー」のことを広めて、理解してもらえたら...と思います。誰もがいつでも、いい映画を観られるようによろしくお祈りします。字幕付きで、八女の映画を観られてとても感動しました。素晴らしいです。機会があれば、また観たいと思います。映画監督さん、ありがとうございます。

馬場 美紀

Table with columns for '上映日' (Screening Date), '主催者及び鑑賞団体' (Organizer and Audience Group), '上映日' (Screening Date), '地域名' (Region Name), '主催者・上映場所' (Organizer and Screening Location), and '配給会社' (Distributor). It lists various screening events across different dates and locations.

絶賛販売中!

Original work information: 演劇の野球部員 舞台に 原作: 竹島由美子 (定価 1728円)

Theme song CD information: 【主題歌CD】「ユビノサキへ」 Good Coming

Pamphlet information: 【パンフレット】 (定価 700円)

Badge information: 【缶バッジ】 <全4種類> (1個 300円/4個 1000円) サイズ38mm

Screening event organizer recruitment information: 上映会主催者募集! 製作配給委員会では上映会主催者を募集しております。素材は、通常版に加え、英語版、バリアフリー版(日本語字幕・音声ガイド)もご用意しております。 ※詳しくは製作配給委員会(0943-24-9061)までお問合せ下さい。